

サンパウロ日系コロニアにおける老人クラブ連合会の社会的機能 ～大都市における高齢者の社会生活を支えるネットワーク～

プロジェクト1 研究員
東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科 教授
紀 葉子

キーワード：日系ブラジル人 社会関係資本 高齢者 地域福祉 ネットワーク

I. はじめに

2008年は笠戸丸移民から数えて100年を迎える記念すべき年であったものの、移民送出国である日本国内でこの話題が大きく取り上げられることは、残念ながら、稀であった。ブラジルはBRICsの一角を占める国でありながら、また、世界最大の日系人コミュニティを有しているながら、メディアに登場する回数は中国やインドに比して少ない。長期低迷を続ける日本経済の活路を求めるには、地球の反対側に位置するブラジルはあまりに遠いということだろうか。ルラ大統領による貧困政策が功を奏し、中間層が拡大しつつあるブラジル社会の21世紀は、黄昏時を迎えた日本社会よりもはるかに明るくみえる。母国に強い愛着心をもつ日系のコミュニティが存在し、日系人の社会貢献によって親日感情の高いブラジルに対して、依然として日本社会が「無関心」を装っているという事実はあまりにも淋しい。

大きな世界大戦を挟んで「移民」としてブラジルに渡った人びととそのこどもたちが、ブラジル社会でどのように生きてきたのか、生きてゆこうとしているのかを明らかにするための光は日本社会そのものを逆照射する。

本稿は、2008年の夏に実施したアンケート調査を下に、南米最大の都市サンパウロにおける日系コミュニティの現在を描くことを試みるものである。戦後の日

本社会以上に「日本的である」とも評されてきた日系コミュニティの姿をその主たる構成員である高齢者を中心にみてゆきたい。

II. ブラジル日系老人クラブ連合会の沿革

今日、若い世代は日系コミュニティに留まらず、ブラジル社会そのものに溶け込む傾向が顕著である。初期移民たちによって築かれてきた日系コミュニティの主たる成員が高齢者となって久しい現在、コミュニティの存続そのものが危ぶまれているとしても過言ではない。東洋街から日系人が経営する商店が姿を消してゆく前に、その姿を記録に留めておく必要があろう。サンパウロ人文科学研究所顧問の宮尾進氏の助言を受けて、リベルダーヂ地区で日伯援護協会¹⁾と並んで高齢者のよりどころとなっているブラジル日系老人クラブ連合会に調査協力を依頼した。

ブラジル日系老人クラブ連合会（以下、老ク連と略す）は1975年に「ブラジル在住の日系在宅高齢者の老後生活充実を目的とする老人クラブ活動に必要な便宜を図る」ために設立された。日本国内における老人クラブ連合会とも連携し、多様な行事や教養教室活動を通して日系コミュニティの高齢者のネットワークの拠点となっている。活動の中心は日伯援護協会（以下、援協と略す）の診療所から数ブロックのドトール・シ

ケイラ・カンポス通りにある2階建ての本部、老ク連福祉センターである。支部活動地域はサンパウロ州、パラナ州、ブラジリア連邦区、マツト・グロソ州と広範囲に及び、2008年度の支部登録会員数は48クラブ、2481名であった。が、実際には正規登録をせずにクラブ活動にその都度、参加するものも少なくなく、登録会員のついで諸行事や催し物に足を運ぶ潜在的なメンバーは相当数に上り、本部の見積りでは潜在的な会員数は正規登録会員数の約5倍に上ると云う。支部登録されている48のクラブ名は以下の通りである。

アクリマソン若葉会、アニヤンゲラ仲よし会、アルジャー親和会、アチバイア清流クラブ、バレットス喜楽会、パウルー老人クラブ福寿会、ブラジリア壮快クラブ、カンポ・グランデ老社会、カンピーナス明治会、カッポン・ボニート寿会、セントロ桜会、ドラセーナ明朗会、フェルナンドポリス千歳会、グアラニー桜クラブ、インダイアツバ親和会、イタペチ老人クラブ万寿会、イタペチニンガ千歳会、イタケーラ寿会、ジュンジャイ睦会、みずほ福寿会、モジ・ダス・クルーズ中央日会老人部、ナザレー老社会、ノーバ・エスペランサ緑会、オウリンニョス長寿会、パルケ・コンチネンタル寿会、ピネエイロス親睦会老壮部、プラッサ・ダ・アルボレ老社会、レジストロ春秋会、レプレーザ高砂子会、リベイロン・プレット壮寿会、リベイロン・ピーレス錦友会、サン・ジョゼー・リオ・プレット白寿会、サンパウロ中央老社会、サンパウロ玉芙蓉会、サンパウロ名画なつメロ倶楽部、サンパウロ生涯現役クラブ、サンパウロ東部紅葉会、サンパウロ鶴亀会、サンパウロ鳥取熟年大学、サントス伯寿会、サント・アマールあおぞら会、サント・アンドレ白寿会、サウデー文協老壮部、スザノ福博村会老人部福栄会、ツパン老人クラブ寿会、ヴィラ・マリア鶴寿会、ヴィラ・プルデンテわかさ会、ヴィラ・ソニア老壮クラブ。

これらの支部に加え、サンパウロの本部に登録する本部会員がおり、2008年度の老ク連正規登録者数は3200名であった。本部は各クラブ間の交流と親睦のために定期的に講演会や芸能祭、カラオケ大会、ゲート

ボール大会、ビンゴ大会や研修旅行などを企画・開催する他、各クラブへの講師派遣²⁾も行っている。また、本部会員の最大のメリットとしてサンタ・クルース日伯慈善病院の医療保険に団体加入できることがある。サンタ・クルース日伯慈善病院は別名、日本病院とも呼ばれ、在ブラジル日本人同仁会によって1939年に設立された日系の医療機関である。ブラジルには公的医療保障制度があり、基本的に医療費は無償とされているが、公的医療保険による医療機関への給付金は民間保険の75分の1程度であり、公的医療保険加入者の診療は病院経営にとって望ましいとは云えない。そのため、多くの医療機関では民間保険加入者の診察を優先する傾向が顕著であるとともに、病院自体が医療保険プランを運営することも少なくない。サンタ・クルース日伯慈善病院もその例外ではなく、老ク連への参加の大きな動機づけのひとつとしてサンタ・クルース医療保険（PLASAC）への団体加入があることは否めない。行事等の活動には参加しない（できない）が、この団体加入のための費用だけを納める賛助会員も576名に上り、割引診療や保険手続きの支援を通して日系コミュニティにおける高齢者ネットワークの核となっている。

また、本部では定期的に教養教室を開催して高齢者の文化・福祉活動の拠点としても大きな役割を果たしている。2008年度に定期開催された教養教室は、健康体操教室、盆踊り教室、コーラス教室、練功体操教室、カラオケダンス愛好会、絵画教室、民謡教室、書道教室、俳句教室、百人一首教室、名画の友、なつメロの



図1) 絵画教室の様子³⁾

集いと多様である。

この他にも、本部では会員からの寄贈等で集まった図書やテープ、CDの貸し出しや健康補助食品や日本食材の販売を行っている。日本食の店が軒を連ねるリベルダージまでは地下鉄で一駅あることもあり、足腰に自信のない高齢者には本部で日用品の購入ができるという利便性も魅力であろう。また、月に一度発行されている機関紙「老壮の友」への投句・投稿の資格を得ることもでき、短歌や俳句、川柳、自分史を日系コミュニティに発表し、記録に留めることも可能となる。かつての日系コロニアのように向こう三軒両隣が日本人の住まいであるといった集住状態が解消され、中産階層へと上昇するにつれて郊外へと分散し、家族内であっても孫の世代とは母語の違いの故にコミュニケーションが思うに任せない高齢の日系人にとって、老ク連のサロンは気のおけない仲間と出会える空間でもある。心身ともに健やかな老後を過ごしたいと願う高齢の日系人にとって老ク連はかけがえのない組織のひとつである。

大都市サンパウロに点在する高齢の日系人が集まる拠点が老ク連本部であるが、さらに広大なブラジル全土に点在する日系人が集まる機会が老ク連の主宰する諸行事である。特に大きな行事は、5月のゲートボール大会、8月の芸能祭、11月の親睦カラオケ大会であり、これらの3大会にはバスをチャーターして遠方のコロニアから参加する支部もある。日伯文化福祉協会の記念講堂を会場として実施される親睦カラオケ大会は、カラオケそのものの魅力もさることながら、講堂の周囲でバザーも開催され、老ク連の正規登録会員以外にも会場に足を運ぶ。日系の自然食品や手作り民芸品、日本食、蘭や観葉植物とバザー出店の商品も多種多様で、ステージの応援の合間に買い物を楽しむものも少なくなく大変な賑わいをみせる。観客が多い上に日伯文化福祉協会の本格的なステージで歌えるとあって、この大会でステージに上がるために正規登録をする会員もあるという。2008年11月23日に開催された第14回大会には226名がエントリーし、午前8時に

SHINJINの部の幕が上がった。最高齢96歳を頂点に59歳までのコロニア歌手が自慢ののどを披露し入賞を競うが、全ての歌手が歌い終えるには19時近くになってしまう。日が暮れてしまうと犯罪に巻き込まれる可能性が高くなるため、会場は日がかげるとつれて閑散とし始める。が、バザーの客も含めればおよそ1000人近くの来場者があり、時節柄、赤い羽根共同募金を呼びかける会員の声も熱を帯び、まさにお祭りである。ステージ上の歌手のみならず、会場に集まることそれ自体に大きな意味があると云えよう。

Ⅲ. 老ク連に集う人びとの基本属性にみる暮らし

2008年11月23日の親睦カラオケ大会における会場調査は原則的に自記式で実施した。が、アンケート用紙の文字が小さ過ぎるため、また、老眼鏡を忘れてしまったため、読めないで読んでほしいという調査対象者からの要望も少なくなかったため、対面での聞き取り代書も平行して行った。また、補足的に教養教室に参加している会員に対しても対面で聞き取りを行いながら調査票への代書を行った。が、いずれの場合も、被調査者が回答する通りを代書するに留め、調査者による「解釈」を回答に反映させることは一切していない。また、親睦カラオケ大会に足を運んだ者を対象にしているため、老ク連加入者の家族も含まれ、回答者には若干の若年層も含まれている。特に就労実態や月収に関しては、老ク連加入者の家族の回答も含むことを前提に見てゆく必要がある。それでは、以下に調査結果の概略を見てゆこう。

有効回答の総数は229で、そのうち自記式が約7割である。また、回答者で明らかに老ク連会員の家族と思われるものは、15歳から44歳までの年齢層に9名を数えることができる。回答者全体の平均年齢は67.7歳であるが、上記の9名を除くと69.3歳となる。性別で見ると、女性の回答者148名に対し男性は68名で⁴⁾女性

の割合が圧倒的に多い。女性の方が長寿であることに加え女性の組織率が高いことも影響している。老ク連本部の教養教室の参加者も圧倒的に女性が多く、例えば、男女がペアでダンスするカラオケダンス愛好会では、女性が男性パートを踊ることも珍しくなく、希少な男性参加者はパートナーとしておおいに尊重される傾向にある。

また、国籍別にみてゆくと日本国籍を有するものが過半数であり、ブラジルに帰化している人は必ずしも多くはない。9名の若年層の中でもブラジル国籍は1名のみで、他はみな日本国籍と回答している。

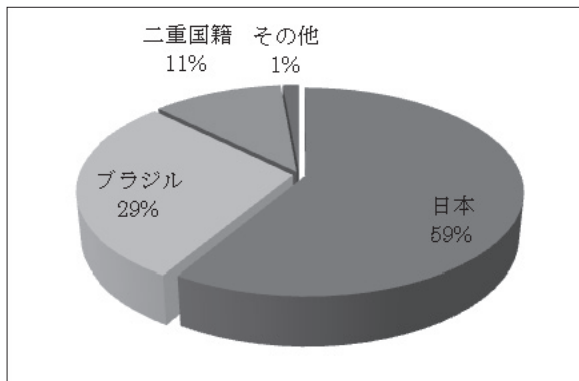


図2) 国籍

次に最終学歴を見てゆきたい。学歴の回答については、教育環境の大きな変化を考慮して若年層の9名の回答を除いてみてゆきたい。

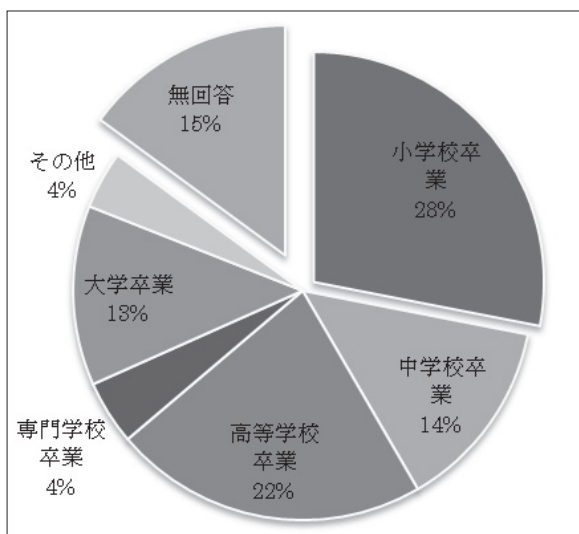


図3) 最終学歴

小学校卒業の中には戦前の尋常小学校卒業も含まれており、今日で云うところの小学校卒業とは意味が異なる。傾向として高等教育を受ける機会を得たものは稀であり、義務教育課程で修了しているものが、半数近くにのぼる。最終学歴に関しては無回答（未記入）が15%となっているが、これは選択肢に「卒業」とあるため、実際には、小学校には入ったものの卒業することができなかった調査対象者も少なくない。戦前であれ戦後であれ、こども移民として小学校課程の途中で大西洋を渡った人々の中には、奥地に配耕されたためにそもそも通える範囲に小学校がなかったり、あったとしても「移民」ではなく「出稼ぎ」であるとの親の認識ゆえに日本に帰るこどもにブラジルの教育は不要と学校に通わせられなかったりといった理由で、そもそも学校教育とは無縁であった人も少なくはない。回答したくとも回答すべき選択肢がない調査票の不備を反省するとともに、なにより、教育機会の徹底的な剥奪状況に対してあまりにも無頓着な質問による調査者の「象徴暴力」を調停しきれなかったことを反省しなければならない。老眼鏡がないから読めないという調査対象者に選択肢を読み上げた際、しばらくの沈黙の後、絞り出すような声で「小学校に行ったと云えば行ったのかもしれないけれど、卒業したとは云えない。途中でやめているから」との応えられるような状況は、回答者によって、無回答のままとされるか、あるいは「その他」に、あるいは「小学校卒業」に任意にマークされる。日系コミュニティの一世の実態を把握するためには、より丁寧な聞き取り調査によって補完する必要があることを痛感させられた。ここでは、高等教育に与る機会には必ずしも恵まれていなかったこと、初等教育でさえ充分な環境にはなかったことを確認しておきたい。

また、回答者の約半数は一世もしくは準一世であり、最初にブラジルに入国したものとして回答者自本人をあげたものは115名、その他の親族（父母／祖父母）をあげたものは114名、無回答6名であった。114名の中には9名の老ク連会員の家族が含まれているため、

一世もしくは準一世の比率の方がやや多いと云えよう。日系コミュニティの中心が二世・三世に移りつつある昨今であっても、老ク連においてはまだまだ一世が主役である。また一世もしくは準一世に限ってみれば、1938年までに入国したいわゆる戦前移民が45名、戦後の1953年以降の入国者が30名、不明が1名、無回答が6名となり、戦前の移民が多数派であることがわかる。出身地は概ね日本全国に広がっており、熊本県、北海道、福岡県、広島県、福島県の出身者が目立つ。最大の移民送出県である沖縄県出身者が必ずしも多くないのは、沖縄県人会が今日においてなお盤石であるためであろう。ブラジル沖縄県人会は沖縄出身者だけで老ク連と同等あるいはそれ以上のカラオケ大会を開催することが可能な規模と組織力を有しており、沖縄出身の高齢者は必ずしも老ク連に頼らなくても良い環境にあることは特筆に値する。うちなーんちゅのネットワークは日系人のネットワークには包摂しきれない社会的文化的背景を有するものであり、稿を改めて論じなければならない。今日においては日系組織が沖縄県出身者に対して排他的であるようなことはなく、老ク連がそうであるように、他の出身県者との間の目立った隔たりはない。

次に、同居人の有無をみると、約1/4が単身世帯となっている。

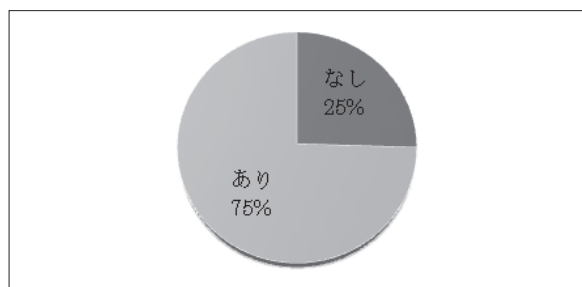


図4) 同居人

一人暮らしの高齢女性にとって、老ク連は家族のようなものであり、常駐する職員や教養教室の仲間と言葉を交わすことそれ自体が生きる励みであるとしても過言ではないだろう。

また、一月の平均的な収入は最低給与 (salário

mínimo)⁵⁾ 程度からその5倍までの範囲との回答が全体の1/4程度となり、年金を主たる収入源としていることが伺える。大都市サンパウロにおいても生活必需品の消費者物価は低廉であり、フェイラではバナナ一房 (といっても日本のように4、5本に切り分けたものではなく、樹上になっていたままの20本程度の果房) が1R\$で購入できるように、家賃の負担がなければ、最低給与程度の年金でも暮らしてゆける。また、自分自身の収入としては年金しかない状態であってもこどもからの援助があって不自由しないケースもあれば、孫に対する教育支援を年金から求められるケースもあり、平均月収の金額だけからその暮らし向きを把握することは困難である。また、調査協力者の中には「ここにいるのは比較的金持ちの年寄りばかりだ。本当に悲惨な年寄りたちはガルボンブエノ通りの下の方に住み、このようなところにも顔を出さない。日系人だからといって皆がいい暮らしをしている訳ではない」と熱く語りながら調査票を手渡してくれる人もあった。そもそも、老ク連の教養教室に通うにも、一回当たり3～6R\$の授業料が必要であることを鑑みるならば、生活するにも事欠く層は老ク連には組織化され得ない。ブラジル社会で艱難辛苦の果てに中間層を形成するに至った日系人の老後の収入と解釈すべきであろう。

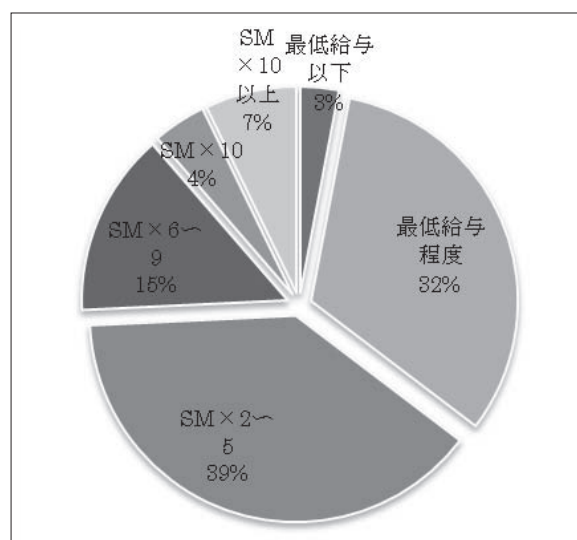


図5) 平均月収

老ク連加盟資格の50歳に満たない回答者9名を除いた回答を整理すると、最低給与以下が5名、最低給与程度が54名、最低給与の2倍から5倍が65名、最低給与の6倍から9倍が24名、最低給与の10倍程度が7名、最低給与の10倍以上が12名だった。自分自身の年金収入が最低給与程度であったとしても、同居人がそれなりの収入を得ている場合も多く、配偶者の年金と合算して、あるいは子や孫の収入とあわせて、ブラジル社会においては比較的豊かな老後を過ごしているといえよう。

IV. 母国とのつながり

日本社会における日系ブラジル人は、経済活動を支える存在でありながらも「同胞」と看做されるより、往々にして「余所者 (stranger)」⁶⁾として処遇される。ブラジルの日系コロニアには古き良き「日本の伝統」が残っていて「日本」以上に「日本的」であるなどと評されることも稀ではないが、出稼ぎ目的で来日する三世世代ともなるとその「ハビトゥス (habitus)」⁷⁾は「日本人」のそれとは大きく異なる。一世世代であっても出稼ぎ先の日本でファリーニャ⁸⁾やガラナー⁹⁾が懐かしくなるように、「明日も留まる」地で身に付いた「味覚」に代表されるような生活習慣は「今日訪れ」た地では異質性を醸し出す。日本社会は同質性を重んじ、異質性を排除する傾向性が顕著であるため、異なる「ハビトゥス」を有する者と穏やかな関係を取り結ぶことが難しい¹⁰⁾。が、ブラジルの地に生きる「日本人」にとっては懐かしい故国であり、その関係性は

極めて密である。

自分も含めた家族の中で10年以内に日本に行ったことがあると回答した者は191名に上り、全体の8割を超えている。来日目的の中でも出稼ぎがその多くを占め、墓参りや病気見舞いのような私的な旅行を遥かにしのいでいる。世界同時不況の影響下で多くの出稼ぎ労働者が職を失う中¹¹⁾、この関係性がどのように変化してゆくのかをさらに持続的に丁寧にみてゆく必要がある¹²⁾。

こうした出稼ぎ労働者の中で「こども」の占める位置は高く、こどもが出稼ぎに行ったと回答している者は76名で、回答者本人が出稼ぎに行ったという38名の倍程度に上る。ブラジルの恒常的に高い失業率が若い世代を母国への出稼ぎに駆り立てるといわれているが、2008年のブラジルの失業率7.94% (OECD) という数字に今や日本も追いつきつつあるし、殊に、若年労働者に限ってみれば、失業率はまさにブラジル並みであろう。ブラジルからの出稼ぎというのは、単に経済的な理由によるものばかりではなく (勿論、それを主たる理由とする出稼ぎも存在するのであるが)、母国を訪れてみたいという憧憬がその背景にあることも見落としてはならない。なぜなら、日系人の「こども」とりわけ日系コロニアに包摂されているような層のこどもは必ずしも出稼ぎでなければ職がない訳ではないからである。

こどもの大学進学を尋ねると驚異的な数字が出てくる。「大卒のこどもがいる」との回答は160名に対し、「大卒のこどもはいない」との回答は58名であるが、この58名の内、そもそもこどもがいない者が29名であるため、その数を引くとこどもがいながら大卒のこどもがいない者はわずかに29名であり、大学進学率は85%に上る。ブラジル社会においても大卒であったとしても必ずしも希望職種に就職できる訳ではない。が、出稼ぎしか生業のあてがない訳でもないのである。こうした日系コロニアにおける高学歴については稿を改めて論じる必要があるが、高等教育に対する制度の違いがあるにせよ、日系コロニアの方が日本社会よりこども

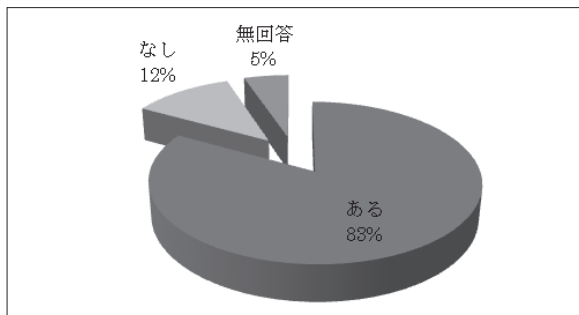


図6) 10年以内に来日した家族

の高等教育における達成度が高いことは明らかである。が、こうした教育への関与の高さは、親の世代が豊かな「文化資本」を有していたために、それを相続した結果であるとは、決して云えない。むしろ、親の世代の徹底した教育機会の剥奪がこどもの世代をして教育へ向かわせた、教育への大いなる渴望こそが日系コロニアにおける高学歴の主たる原動力であったと云えそうである。

先にみた最終学歴でも明らかなように、一世、準一世として海を渡った世代は初等教育すら満足に受けることが適わなかった。ブラジル社会における初等教育の整備の遅れに加え、帰国を前提としていたためにブラジルの教育を受けさせてもらえなかった人々のこどもが高等教育に与り、ブラジルの中間階層を形成しているのであるか、教育機会を剥奪された親の世代のポルトガル語の能力は決して高くない。

ポルトガル語の能力について、話すこと、読むこと、

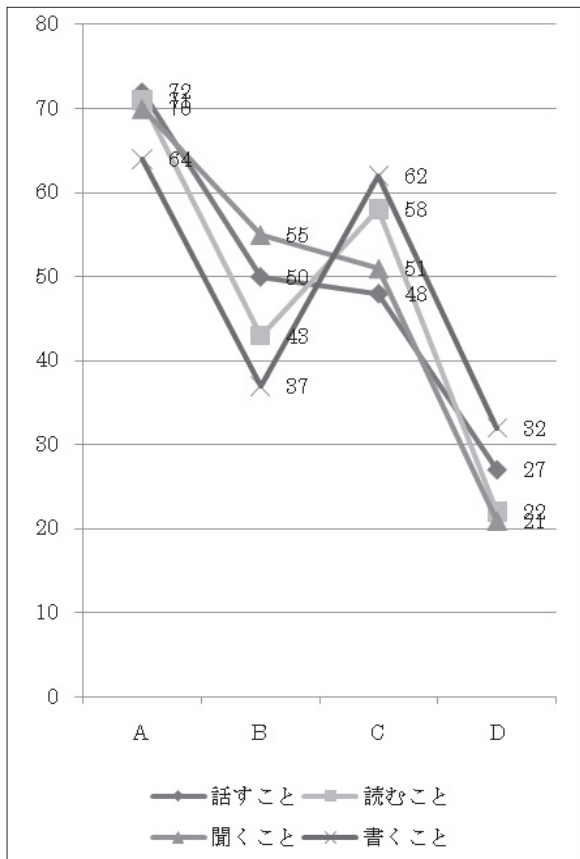


図7) ポルトガル語の能力

聞くこと、書くこと、に関する自己評価を尋ねると以下ようになった。

先述の9名を除いてみると、「話すこと」に関しては日常的な暮らしの中で「自由にできる」と感じている者が72名と「かなりできる」が50名、「少しできる」が48名、「ほとんどできない」が27名で、「話すこと」にはあまり苦手意識はないようである。「聞くこと」に関しても、ほぼ同じような描線となり、「自由にできる」が71名と「かなりできる」が55名、「少しできる」が51名、「ほとんどできない」が21名となっており、家族をはじめポルトガル語で話されていることを聞き取ることはできると感じている人は少なくない。それに対し、「書くこと」になると「自由にできる」64名と「少しできる」の62名が拮抗しており、いくらか苦手意識が生じている。もっとも、この「書くこと」に対する解釈は回答者によってことなり、「(正しく)

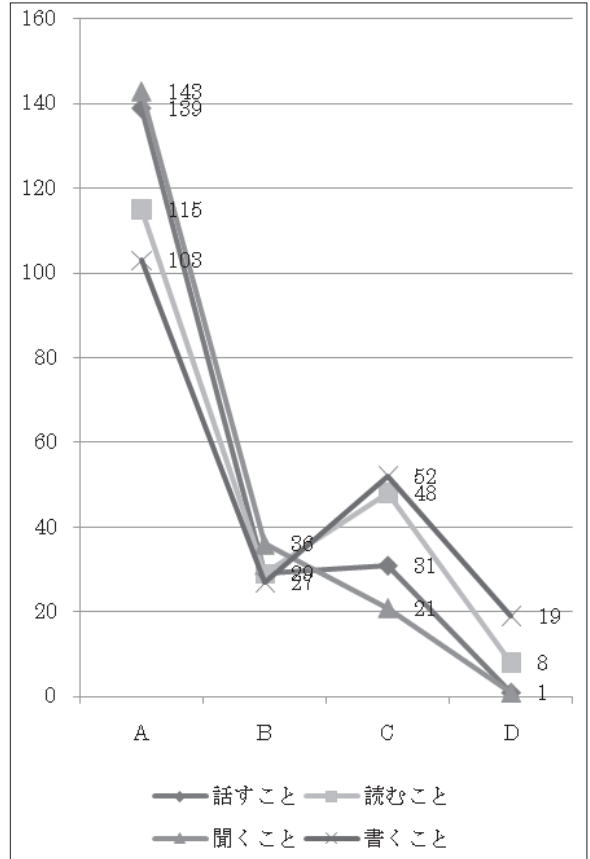


図8) 日本語の能力

作文ができる」と捉える者から「アルファベットを書くことができる」と捉える者まで幅が広く（尤も、後者のような解釈がなされることは想定外であったのだが）各々の能力を正しく反映しているとは言い難い。ただ、次の日本語との比較において、ポルトガル語の使用については必ずしも容易で無い状態にある者が多いことは明らかである。

日本語の能力についての自己評価はポルトガル語に比して圧倒的に高く、「話すこと」が「自由にできる」と思っている者は139名とポルトガル語に比して2倍程度にはね上がり、「かなりできる」が29名、「少しできる」が31名、「ほとんどできない」がわずかに1名と日本語での意思伝達を主とするひとびとが老ク連に組織化される傾向を有していることが明らかである。「聞くこと」についても143名が「自由にできる」と感じおり、36名が「かなりできる」、21名が「少しできる」、「ほとんどできない」ものは同じくわずかに1名である。老ク連のサロンの楽しみのひとつがおしゃべりであることが伺える。また、「読むこと」については「自由にできる」が115名、「かなりできる」が29名、「少しできる」が48名、「ほとんどできない」が8名となり、ポルトガル語同様、「話すこと」「聞くこと」とはいくらか様子が異なってくる。「少しできる」という消極的な評価が多くなるのは、出国前に日本の学校に通ったりコロニアにきてから日本語学校に通ったりする機会に恵まれなかったことが理由として考えられる。主として家族の中で日本語を聞き覚えたひとびとにとって、「読む」「書く」といった学習機会は稀であり、老ク連に通うようになってから貸し出し図書や日本語の新聞で「読む」トレーニングをする姿も珍しくない。母国語教育に対する送出国の無為無策を個人の努力で補っているのである。「書くこと」については「ほとんどできない」が19名となっているが、これも教育機会の剥奪の証左でもある。ポルトガル語のみならず、日本語を習得する機会もまた、必ずしも充分ではなかったのである。

ポルトガル語についての不安に対する助けを求め、

母国語での意思疎通が可能となる場を求め、日系コロニアの高齢者は老ク連の門を叩く。老ク連本部はそれぞれの地域の支部を結ぶネットワークの拠点であると同時に、大都市サンパウロへと拡散してゆく日系の高齢者を緩やかにつなぐ扇の要でもあるのである。

V. むすびにかえて

調査票の文字が小さいから読めないのではなく、調査票のポルトガル語も日本語も読むこと自体が負担に感じられる。日本語もポルトガル語も不自由である責任は日系人自身にはない。そうであっても、不得手であるという事実は心に重いであろう。できるか否かを迫る問いかけは「象徴暴力」の行使にすぎない。定型化された選択肢には収まりきれない「社会的事実」をブルデューが提唱した「社会分析 (socio-analyse)」の方法に基づく面談調査を通してさらに明らかにしてゆきたい。ブラジルの大地に眠る豊富な地下資源以上に日系コロニアの人的資源は無尽蔵なのである。

【注】

- 1) 拙著「サンパウロ、カロン地区における地域福祉活動の試み～日伯援護協会による奄美事業所跡地プロジェクトの現状と課題～」、『福祉社会開発研究』、No.2, 2009を参照されたい。
- 2) 老ク連にはJICAよりシニアボランティアスタッフが派遣され本部の諸行事に参加協力するのみならず、各支部活動にも協力している。現地から最も歓迎されている数少ない日本からの直接援助である。シニアボランティアによるレクリエーション指導は2009年6月に貞弘昌理氏のアコースティックギターから与古田徳造氏の三線へと引き継がれ、好評を博している。
- 3) 撮影は2009年9月。
- 4) 無回答が13名である。

- 5) 2008年8月の最低給与は412.42R \$であり、日本円に換算すると16,500円程度になる。
- 6) 「今日訪れ来て明日去り行く」放浪者と異なり、「今日訪れて明日もとどまる」者を「余所者」としたジンメルの定義に基づく（ジンメル、1979、285頁）。
- 7) ブルデューによると「日々の営為（pratique）」を決定づける「性向（disposition）」（心的諸傾向）の体系（構造化する構造）であると同時に「身体化された歴史」（構造化された構造）である。（Bourdieu,1980a、他）
- 8) マンジョカ芋を乾燥させて細かく砕いた粉。ブラジル料理に広く用いられる食材。
- 9) ブラジルで広く親しまれている木の実のエキスが入った清涼飲料水。
- 10) モンゴルからやってきた青年に「横綱の品格」という日本人ですらそれが何であるかを明確に言語化できないものを求め続けて押しつぶし、それでもなお反省すらしないのが今日の日本社会のありのままの姿である。
- 11) 「帰国支援」と銘打ち事実上国外退去を迫るのみならず再入国すら規制する厚労省の「雇用対策」が前時代的な排外政策にほかならないことはここに初めて云うまでもない。
- 12) 出稼ぎ労働者がおかれている労働環境は明日の「日本人」の労働環境である。リーマンショック以降の「派遣切り」や「雇い止め」を「労働力の使い捨て」として批判する傾向が顕著になったが、そもそも日系人を含む「外国人労働者」は（女性のパート労働者ととも）いつでも「使い捨て」にできる「雇用の調整弁」であった。日本人の「男性労働力」が使い捨てにされてはいけないのではなく全ての労働者が使い捨てにされるようなことがあってはならないのではないか。雇用の「弾力化」、フレックシズの罫を解くことは社会学者に課せられた使命のひとつであろう。

【主要参考文献】

- 移民八十年史編纂委員会（1991）『ブラジル移民八十年史』
サンパウロ人文科学研究所
- ジンメル.G.（1979）『秘密の社会学』世界思想社

- 中岡哲郎（1994）『ブラジル学入門』無明舎出版
（1995）『ブラジル観察学』無明舎出版
（1998）『ブラジル日系社会考』無明舎出版
- ブラジル日本商工会議所編（2005）『現代ブラジル辞典』新評論
- 堀坂浩太郎編（2004）『ブラジル新時代』勁草書房
- 宮尾進（2002）『ボーダレスになる日系人』
サンパウロ人文科学研究所
- Bourdieu,P,（1970）La Reproduction:Éléments pour une
théorie du système d'enseignement, Minuit
（1979）La Distinction:Critique sociale du
fugement, Minuit
（1980a）Le Sens Pratique, Minuit
（1980b）Questions de sociologie, Minuit
（1984）Homo Academicus, Minuit
（1998）Contre-feux; propos pour servir à la
résistance contre l'invasion néo-libérale,
Raisons d'agir

謝辞：老人クラブ連合会での調査に際して本部スタッフのみなさま、上原玲子さん、金藤泰子さん、池淵シニエラ信子さん、片桐登さんたちからご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。特に上原さんには適宜、ご助言を賜り、円滑に調査を進める力になって頂きました。ありがとうございました。

また、データの統計処理にあたっては本学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程1年の菅原想くんに協力頂きました。記して感謝を表します。

「カラオケ大会」にお集りのみなさまへのアンケートのお願い

本日はカラオケ大会へのお運びお疲れさまにございます。

さて、私は東洋大学におきまして社会学を教え研究するものでございますが、この度は、日本学術振興会の研究費をうけてブラジルに生きる人びとの生活文化の調査をさせて頂くことに致しました。

今回はブラジル日系老人クラブ連合会にご協力を賜り、カラオケ大会にお集りの方々を対象にしたアンケート調査を計画致しました。その目的はブラジル社会に生きる日系人の方々の社会意識と生活文化を理解することです。この調査の結果、得られた事実を日本の人びとに伝えることによって、日本とブラジル両国の真の理解と友好に役立たせたいと考えております。

なお、このアンケート調査の結果は統計的に処理致しますので、アンケートにおこたえ頂いたみなさまにご迷惑がかかるようなことは一切ございません。ご面倒とは存じますが、研究の趣旨をご理解下さり、なにとぞご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2008年 11月

東洋大学社会学部教授 紀 葉子
(社会学博士)

QUESTIONARIO AOS QUE ASSISTIRAM À PEÇA “KARAOKÊ”

Agradecemos-lhe a sua presença da peça “KARAOKÊ”.

Nós, da Faculdade de Sociologia da Universidade Toyo, recebemos financiamento do Sociedade de Japão para a promoção de Ciência, com o qual resolvemos fazer uma pesquisa sobre a vida e a cultura das pessoas que vivem no Brasil.

Com a colaboração da federação dos clubes nipo-brasileiros de anciões, planejamos o presente

questionário. Que faz parte da pesquisa, para ser respondido per todos que assistiram à peça “KARAOKÊ”. O mesmo tem como objetivo adquirir melhor compreensão sobre a consciência social, a vida e a cultura dos descendentes de japoneses que vivem na sociedade brasileira.

Esperamos que a divulgação do resultado desta pesquisa no Japão possa contribuir para beneficiar a compreensão mútua e a relação amistosa entre os dois países.

Este questionário será analisado estatisticamente e sua privacidade será estritamente respeitada.

Na esperança de que tenha compreendido a finalidade da pesquisa solicitamos-lhe sua cooperação,

Antecipamos o nosso agradecimento por toda a atenção que for dispensada.

Novembro de 2008

Doutora em sociologia KINO Yôko
(Universidade TOYO)

1. ご家族のうちではじめてブラジルに入国・居住された方はあなたからみてどなたにあたりますか。記号に○印をつけておこたえください。

Qual foi a primeira pessoa da sua família que veio e se radicou no Brasil? Assinale a resposta correspondente.

- A) ご本人 B) 父母 C) 祖父母
D) その他 ()

- A) Eu mesmo B) Meus pais C) Meus avós D)
Outros ()

2. その方は何年に入国・居住されましたか？

() 年

Em que ano essa pessoa chegou ao Brasil?

()

3. その方の出身地はどちらでしょうか？

() 都道府県

Essa pessoa é natural de que província?

Província de ()

4. あなたのご家族でここ10年間のうちに日本に行かれた方はいらっしゃいますか？

Alguém da sua família foi ao Japão nesses últimos 10 anos?

A) はい () 人 B) いいえ

A) Sim () vezes B) Não

→その中に出稼ぎのために日本に行かれた方はいらっしゃいますか？

その方はあなたからみてどなたにあたりますか？

Entre elas, existe alguém que foi ao Japão com o fim de trabalhar?

Quem é essa pessoa?

A) 父母 B) 祖父母 C) こども

D) 孫

A) Meus pais B) Meus avós

C) Meus filhos D) Meus netos

E) 配偶者 F) ご本人

G) その他 ()

E) Meus cônjuge F) Eu mesmo

G) Outros ()

5. お子さんは何人いらっしゃいますか？

Quanto é o número de suas filhas?

娘 () 人 息子 () 人

こどもはいない → 7.へ

filhas() vezes filho() vezes

Não filhas → 7.へ

→その中に大学を卒業した方はいらっしゃいますか？

Entre elas, há a pessoa de diplomado de universidade?

A) 州立大学 universidade estatal

娘 filhas () vezes

息子 filho () vezes

B) 私立大学 universidade privada

娘 filhas () vezes

息子 filho () vezes

C) 大学に進学したこどもはいない

Não há a filhas que entrou na universidade.

6. あなたがお子さんの教育のためになされたことがあれば、いくつでもその記号に○印をつけておこたえください。

O que é haver feito para a educação da filhas? Assinale a resposta correspondente.

A) 引っ越し B) 農地の拡張

C) 新たな事業

A) Movendo B) A expansão da fazenda

C) Um negócio novo

D) 転職 E) その他 ()

D) Uma mudança de trabalho

E) Outros ()

7. あなたはポルトガル語をどの程度使えますか？

次の4項目について、それぞれ当てはまる記号に○印をつけて下さい。

Qual a sua proficiência da língua portuguesa? Assinale a resposta correspondente em cada item.

A) 話すこと a)自由にできる b)かなりできる

- c) 少しできる d)ほとんどできない
- A) falar a) sem dificuldades b)bem
c)um pouco d)quase nada
- B) 読むこと a)自由にできるb)かなりできる
c) 少しできる d)ほとんどできない
- B) ler a) sem dificuldades b)bem
c)um pouco d)quase nada
- C) 聞くこと a)自由にできるb)かなりできる
c) 少しできる d)ほとんどできない
- C) ouvir a) sem dificuldades b)bem
c)um pouco d)quase nada
- D) 書くこと a)自由にできるb)かなりできる
c) 少しできる d)ほとんどできない
- D) escrever a) sem dificuldades b)bem
c)um pouco d)quase nada
8. あなたは日本語をどの程度使えますか？
次の4項目について、それぞれ当てはまる記号に○印をつけて下さい。
Qual a sua proficiência da língua japonesa?
Assinale a resposta correspondente em cada item.
- A) 話すこと a)自由にできるb)かなりできる
c) 少しできる d)ほとんどできない
- A) falar a) sem dificuldades b)bem
c)um pouco d)quase nada
- B) 読むこと a)自由にできるb)かなりできる
c) 少しできる d)ほとんどできない
- B) ler a) sem dificuldades b)bem c)um pouco d)quase nada
- C) 聞くこと a)自由にできるb)かなりできる
c) 少しできる d)ほとんどできない
- C) ouvir a) sem dificuldades b)bem
c)um pouco d)quase nada
- D) 書くこと a)自由にできるb)かなりできる c) 少しできる d)ほとんどできない
- D) escrever a) sem dificuldades b)bem c) um pouco d)quase nada
9. あなたは日本語を教わったことがありますか？
それはどこですか？
Você teve alguma oportunidade de aprender a língua japonesa? Onde?
- A) 日本で身につけた
B) ブラジルの家族の中で聞き覚えた
A) No Japão
B) Aprendi em casa, no Brasil, de ouvido
C) ブラジルの日本語学校で教わった
D) 日系組織の集まりで教わった
C) Aprende na Escola de Língua Japonesa
D) Aprende nas reuniões da Nikkei
E) 出稼ぎで聞き覚えた
F) その他 ()
E) Aprendi em dekassegui, no Japão, de ouvido
F) Outros()
G) 日本語を教わったことはない
G) Não há nada que tenha sido novidade
10. 現在、あなたと同居している家族はいらっしゃいますか？
その方はあなたから見てどなたにあたりますか？
Há a família que residem com você agora?
Quem é essa pessoa?
- A) 父母 B) 祖父母 C) こども
D) 孫
A) Meus pais B) Meus avós C) Meus filhos
D) Meus netos
E) 配偶者 F) ご本人のみ
G) その他 ()

- E) Meus cônjuge F) Um eu
G) Outros()

11. あなた以外に働いて収入を得ている同居人は何人ですか？

Além de você, quantas pessoas na sua casa (que residem com você) trabalham e têm remuneração?

() 人 pessoa(s)

12. あなたの月の収入はどのくらいですか？

Qual o seu salário mensal?

- A) 最低給与以下 B) 最低給与程度
C) 最低給与×2～5
A) menos de 1 salário B) 1 salário mínimo
C) 1 salário mínimo×2～5
D) 最低給与×6～9 E) 最低給与×10
F) 最低給与×10以上
D) 1 salário mínimo×6～9
E) 1 salário mínimo×10
F) 1 salário mínimo×mais de 10

13. あなたには好きな日本の歌がありますか？ ある方は歌の題名か覚えている歌詞の一部を書いて下さい。

Há alguma canção japonesa de que você gosta?

Se houver, escreva um trecho da letra.

- A) ある ()
A) Há ()
B) 好きな歌はない
C) 日本の歌は知らない
B) Não há nenhuma de que eu gosto
C) Não conheço nenhuma

14. あなたの座右の銘を書いて下さい。

Por favor escreva seu lema.

Dados Pessoais

①性別(Sexo) :

- a) 男性(Masculino) b) 女性(Fmeino)

②生年月日(Data de nascimento) :

Ano 19____年、Mês____月、Dia____日

年齢(Idade): ____歳(anos)

③最終学歴(Último fundo educacional) :

- a) 小学校卒業(Graduação de escola primária)
b) 中学校卒業(Graduação de escola secundária júnior)
c) 高等学校卒業(Graduação de escola secundária)
d) 専門学校卒業(Graduação escolar vocacional)
e) 大学卒業(Graduação de universidade)
f) その他(outros) ()

④国籍(Nacionalidade) :

- a) ブラジル国籍(Brasileira)
b) 日本国籍(Japonesa)
c) 二重国籍(Dupla nacionalidade)
d) その他の国籍(outros) ()

☆もしおさしつかなければご芳名とご住所をお願い
致します。

Se não for-lhe incômodo, por favor escreva seu
nome e endereço.

ご芳名(Nome) _____

ご住所(Endereço)

ご協力ありがとうございました

Muito obrigada pela sua colaboração!